

日本の心を聴く 甲賀三曲演奏会

原稿執筆者

まちかど特派員

うえにし さだ お
上西 定雄



甲南忍の里プララで、甲賀三曲の会とプララ運営委員会との合同企画により、人間国宝 山本邦山さん（重要無形文化財尺八保持者認定）を特別出演に迎え、心地よい安らぎと潤いを与えてくれる邦楽の世界「甲賀三曲演奏会」が開かれました。

市民参画のまちづくり推進というところで企画から当日の司会までボランティアの方々が運営しました。三曲とは「尺八・箏・三絃」のことで、甲賀三曲の会は日本古来の伝統音楽の伝承をはかるべく昭和57年に発足し、今年25年を迎えた甲賀地域の各教授の有資格者で組織された会で、今回はこれらの会の各先生方も出演されました。

演奏は二部形式で、一部は会員



▲会場に響き渡る琴の音色

の皆さんが一曲目に現在各楽器を習っておられる弟子の方々（8歳のお子さんもいる）を中心とした一般の方にもお馴染みの「森のくまさん」などの童謡が演奏されました。二曲目以降は「編曲 八千代獅子」や、宮城道雄さんの名曲「春の海」などを尺八の鈴木力山さんを始めとする三曲の各先生方の合同演奏となりました。最後に邦楽の音楽物語「つるのおんがえし」を、舞台やNHK教育に出演されている山本昌之さんが、邦楽演奏をバックに身ぶり、手ぶりを



▶演奏会に参加する最年少の女の子

交えて語られました。

二部では山本邦山さん及びそのファミリーによる演奏で、うつとりと心を和ませてくれました。最後には紫香楽太鼓・炎の皆さんも加わって邦楽と打楽器による「信楽絵巻」を総勢59名での演奏で、迫力ある邦楽の世界を奏しませてくれました。

甲賀三曲の会は、毎年各町内持ち回りで研究会を、また5年に1回演奏会を開催されています。また、会員の皆さんもそれぞれの町内の学校から依頼があれば出向いて演奏し、和楽器を生徒の皆さんに直接触れてもらう体験学習などを実施しておられます。代表者の一人である鈴木力山さんは尺八歴45年、指導の傍ら日本の心である邦楽を多くの人に伝えようと演奏会の企画から運営まで携わっておられます。鈴木さんは、「私たち会員全員は今後も三曲がより広く愛され、普及するために充実した活動を続けていくつもりです。」と熱く語っておられました。

また参加された生田流箏曲正派の金田さんは「心地よい緊張の中の演奏に加え、多くの方々に邦楽に触れていただき、有意義な一日であったと感じました。」と語っておられました。

演奏会を聴きに來られた町内の女性は「昔から家に古い尺八があったが、誰も吹いたことも無く、

今日始めて生で聴き、澄んだ音色に驚くとともに身が引き締まる思いがしました。本当に良い演奏会でした。」と「一緒に來られた3人友だちも邦楽の良さを口々に語り満足した様子で帰られました。

終わりにプララ運営委員長で文化協会の会長である東澤さんも「地域社会との関係を大切にしながら、文化事業によるまちづくりに取り組んで行きたい。」と語っておられました。



▲総勢59名による迫力のある演奏会